

令和8年度 草津市健康づくり推進協議会

開催日時	令和8年8月17日(月)13時30分から15時30分	
開催場所	さわやか保健センター 1階 視聴覚室	
委 員	出席	17名 近藤会長、八木委員、藤井委員、大塚委員、家光委員、杉田委員、伊庭委員、山本委員、中西委員、大脇委員、梶田委員、馬場委員、西川委員、田中委員、布施委員、望月委員、松村委員
	欠席	3名 藤田委員、保坂委員、西田委員
傍聴者	なし	

1. あいさつ

【佐藤健康福祉部理事 あいさつ】

【草津市健康づくり推進協議会設置条例第3条ならびに第4条および、草津市健康づくり推進協議会設置条例施行規則第4条に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており、本協議会が成立していることを報告】

2. 会長、副会長の選出

【会長に近藤委員、副会長に八木委員を選出】

3. 議題

(1) 第3次健康くさつ21

1) 令和7年度取組の実績について(報告)

事務局(健康増進課): 資料1-1 および資料1-2に基づき報告

2) 女性の健康づくりの取組について(協議)

事務局(健康増進課): 資料2に基づき説明

副会長: 当クリニックでも HPV ワクチン接種をしています、接種している方は少ないです。学校医として中学校の健診等にも関わっていますが、健診の時に HPV ワクチンのパンフレットを置いていかを保健室の先生と相談して、学校側は前向きに受け入れてくださったので、そういった啓発の場を増やしていくのもひとつではないかと思いました。

会 長: 啓発の場というのは非常に重要であると思います。委員の皆様がそれぞれ活動されている場所で啓発に繋がるような案があればぜひ教えていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員：栄養士会ではプレコンセプションケアの講師の教育に取り組んでいます。今後、多くのスタッフが養成されていく見込みですので、町内会やイベントなどに呼んでいただけると、新しい情報や正しい知識を啓発できるのではないかと考えています。あとは、個人的な意見ですが、子育て世代は自分の時間がなかなか取れないなかでも美容院などは行っていると感じていて、そういった自分の時間が少しでも取れる場に情報誌などを置いておくと、ゆっくり読んでもらえるのではないかと思います。

会長：子育て世代、働き世代をどこで捕まえるかが重要ですので、美容院などの医療機関以外の場所に啓発物を提供することも、事務局はご検討いただけたらと思います。

委員：女性が自分で考えることも大切ですが、家族や職場の男性など、性別を超えて考えていくことが大切だと感じています。大学生と高校生のこどもがいますが、今朝、話をする機会があって、食事やメンタルだけでなく性教育なども含め、小学校低学年からもっと話を聞いていてもよかったのではないかと考えていました。どうしても思春期になってからだと、こんなこと聞いたら友達にどう思われるだろうとか、聞きたくても素直に聞けなかったりするので、低学年から話を聞くことが教育の場でできたらいいのではないかと考えました。あとは、前の職場では、パソコンを立ち上げた時に健康やストレス対策に関する画面が出てきて、チェックを入れないと先に進めないようになっていました。興味のないものはスルーしてしまうかもしれませんが、そういう風に目に付く形で毎日啓発されることで、男性女性に関わらず、意識づけられるのではないかと考えました。

会長：パソコンを立ち上げた時にチェックをするというアイデアは、各職場においてできる取組ではないかと思っています。

委員：病院の前にある薬局、病院から離れた場所にある薬局、ドラッグストアのなかにある薬局など最近では様々な薬局が存在していて、年齢層に応じて利用される薬局の形も変わってきているとお見受けします。例えば、若年層にはドラッグストア系統の薬局のサイネージでご案内を、ご高齢の方には信頼のおける薬剤師がいる薬局の窓口でリーフレットを用いながら口頭で伝えるというように、一元的な啓発ではなく、伝え方を工夫していただけたらと感じました。

会長：薬局は受診しないと行かないですが、ドラッグストアは様々な方が行くので、そういう場所で啓発するのもひとつだと思います。

委員：ボランティア連絡協議会の委員をしていますが、ボランティアを通じて様々な人と関わって色々な情報を得ることができて、日頃から地道に活動することが健康に繋がっています。団体の集まりも色々あるので、何か啓発物があれば共有していきたいと思っています。ボランティア人口は段々と減ってきていますが、皆さんにもお力添えをいただきながら、ひとりひとりが地域との交流を深めることが大事ではないかと思っています。

委員：健康推進員は、食生活を通して健康づくりの活動を進めています。乳児のいるお父さんお母さんに離乳食の作り方や味を覚えていただく離乳食レストランでは、子育て世代の方々に食生活のバランスや朝食の大切さを伝えています。また、運動面では市民歌に合わせてはつらつ体操をしています。まちづくりセンターや敬老会、運動会などでこどもから高齢者まで一緒になって、筋力維持やフレイル予防のために体を動かしていただいています。また、先日、池上彰さんの番組で、滋賀県は平均寿命が男性1位、女性2位で、その要因のひとつが減塩だとおっしゃっていました。健康推進員の活動のなかでも、お味噌汁を始めとした減塩料理の調理実習をして、食べ物から体が作られているということを地域の皆様に伝えています。

委員：男性が家事をされているご家庭もありますが、女性の割合が多いように感じますし、仕事をされていると家事は夜や週末にしたりして、自分の時間を取るのが難しいのではないかと思います。また、私は地元の食材や野菜ソムリエをこだわり滋賀ネットワークの活動で応援させていただいており、また、市でもクックパッドで草津市産の野菜を使ったレシピの紹介をされていますが、資料1-2の施策 6 の目標項目の「④産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ市民を増やす」の令和7年度の数値が、令和4年度より減っているのがとても残念です。食べ方が分からないから手にとらない、購買に繋がらないという人が多いのではないかと思います。地元の野菜を作っている農業高校の生徒さんや、地元の野菜を使用している飲食店さんと出会えるマルシェを南草津で開催されており、年に1回ほど利用させてもらっていますが、気軽に地元の食材を食べられます。そういう場に行くと食事を作る負担が無くなるので、例えば、その時間を使って病院を受診する等、農業や経済も回しながら健康になれるようなアプローチが必要なのではないかと思います。

会長：女性はあまり時間が持てない、持ちにくいという背景があるということでしたが、他にいかがでしょうか。

委員：スポーツ健康科学部に所属していますので、運動の観点からお話をさせていただきます。女性ホルモンは加齢によって低下しますが、日頃から運動をしていると低下がなだらかになることが分かっているので、運動をするメリットも啓発の内容に入れていただけたらと思います。主婦の方、仕事をされている方いずれにおいても時間があまりなく、携帯から情報を手に入れていることが多いので、SNS を活用して、市の LINE や BIWA-TEKU のなかに女性のカテゴリを設けたり、男性に理解していただくという意味で、男性向けの啓発のなかに女性の年代ごとのイベントやリスクなどの情報を入れていく必要があると感じます。また、うつというと病気と捉えられるので、もやもやしたり心配になったりする部分があっても、その情報は見ないという方もいるでしょうから、悩みごとというカテゴリがあると気軽に見られるのではないかと思います。運動はうつの改善や予防にもなるので栄養と合わせて必要だということを、健診や病院、ご意見があった薬局でもいいので、病気になる前に気をつけましょうという形で啓発していただくのではないかと思います。

会長：先ほどから学校での HPV ワクチンの啓発や、小学校低学年からもっと話をしたらいいのではないかという意見も出ていますが、学校現場ではどのような取組をされているのでしょうか。

委員：教科書のなかに自分の健康について考える学習があったり、毎月食育の日に合わせて、給食センターで作成されたパワーポイントの資料を給食の時間にこども達に見てもらったり、栄養士の先生から三大栄養素やカルシウムなど栄養に関する教育をしています。また、学校によって多少違いはありますが、うちの小学校では、学期ごとに1回ある身体測定の期間にショート学活のなかで冬場であれば風邪の話、高学年になると喫煙あるいは飲酒の話をしています。あとは、がんを経験された方の話を聞いたり、文科省でも言われている生命の安全教育ということで、低学年から各学年に応じた形で性教育をしたり、教科書に定められたものだけではなく、男女共同参画センターなどから派遣いただいている外部の講師も活用しています。なかなか小学校の段階で女性の健康づくりというところまでは難しいですが、日々の食生活を振り返ったり、自分や他人の健康や身体のことに関心を持ったり、将来に向けた健康づくりの力を育てる取組をしております。

会長：例えば、小学生の児童の保護者向けに、授業参観の時に健診やがん検診を受けましょうと啓発ができるのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

委員：うちの小学校では、授業参観で性教育の授業をしたり、保護者の方にも関心を持ってもらおうという取組を昨年から少しずつ初めていて、今後も保護者の方を巻き込んで進めていけたらと考えております。

会長：こどもに言われると親もやらなくてはいけないという気がするので、そういうアプローチもあると考えました。また、病院というとハードルが高いけど、歯科医院はそこまで高くないと感じているのですが、いかがでしょうか。

委員：歯科医院は健康維持のために通われている方も多いので、健康づくりのきっかけとしてハードルが低いと思います。個人的な意見ですが、私の診察している子育て世代や働き世代の患者さんは、自分で物事を判断して、疑問に対しても自分から動くので、プッシュ型の知識は嫌がられる傾向にあります。こちらからこうした方がいい、ああした方がいいというのはむしろ受け入れられにくいので、わざと疑問を持つような環境を作って、患者さんから一つ質問が来たら十返すというように、疑問をきっかけに知識を伝える方がいいのではないのでしょうか。

会長：限られた時間のなかでプッシュ型の知識は受け入れられにくいというのは同感です。例えば、歯科医院に健診やがん検診のポスターを貼っておいたら、それを見て受けた方がいいと思う方もいるかもしれませんし、そういう繋がりが生まれたらと感じました。

委員：資料2の内容がとても分かりやすいと思うので、例えば、この資料を待合室に置いておいたら、自分の年代と照らし合わせて、リスクや対処法など色々なことに疑問や興味を持つのではないのでしょうか。

会 長:そこで興味を持ってもらうことが、自分事として考えてもらう啓発に繋がるのではないかと感じる
ので、事務局はご検討いただけたらと思います。

委 員:昨年、本陣でやっていた運動教室が文化×運動が体感できてとても良かったので、あぁいったイ
ベントを増やして欲しいと思うのですが、正直、時間がある人向けの企画という感じがしました。運
動教室は夕方でしたが、同じ時間帯のフェリエ南草津周辺はこどもの習い事の送迎の親御さんが
非常に多くいらっしゃるので、例えば、5分くらいで運動体験ができて、もっと運動したいという人
は入会というようにきっかけがあると企業さんの協力も得やすいでしょうし、気軽に運動できるイ
ベントを考えていただけたらと思います。

(2)第2期草津市国民健康保険保健事業推進計画

1)令和7年度取組の実績について(報告)

事務局(保険年金課):資料3-1および資料3-2、資料3-3に基づき報告

2)中間評価について(協議)

事務局(保険年金課):資料4に基づき説明

委 員:中期目標の「メタボリックシンドローム該当者・予備軍の減少」の、目標値に対する評価をD:悪化
とされていますが、この事業を令和11年度まで進めていくなかで、該当者や予備軍の方が一定数
増えきった後に事業の効果が出て減少していく形になるので、今の時点では数値が悪化している
という認識で合っているのでしょうか。そのなかで、どの段階で転じて、該当者や予備軍の方が減少
していくイメージをされているのかが気になります。また、薬局では薬剤師会が介入して多剤併用
に関する活動を色々としています。ヘルスケアデータを利用することによって多剤併用を減らし
ていくなど、マイナンバーの活用について市ではどのように検討されているかを教えていただきた
いです。

事務局:メタボリックシンドロームの該当者や予備軍の数値については、新規受診者が増えると今までか
かっていなかった方が把握されるので、他市町においても悪化する傾向にあります。当市におい
ては、該当者や予備軍は男性が圧倒的に多く、年代別に見ましても、60代、70代の受診者数
が多い年代がかかっておられます。今後も新規受診者が増えていくにつれ、該当者や予備軍に該
当する方も増えていくと思われ、いつ増えきるかは難しいところではありますが、受診率が低い
年代に特定健診を受けていただき、血圧や脂質、血糖で「要受診」に引っかかった方が病院を受
診し、早期治療に繋がるよう啓発をしまします。また、マイナンバーを活用した事業展開につ
いては、お配りしたパンフレットの裏面にも記載のとおり、マイナポータルで健診結果が閲覧でき
ることなどをパンフレットやホームページなどで十分に周知していくとともに、今後さらに保
健事業にマイナンバーを活用できるよう考えてまいります。

会 長：特定健診の受診率が上がったことは喜ばしいですが、一方で、40代から50代前半は受診率が30%に満たないので、そこをどのように上げていけるかが全国的にも問題になっていると思います。この年代の方は自営業の方が中心ですとか、何か特性があるのでしょうか。

事務局：自営業の方や社会保険を脱退されて国民健康保険に加入される方、40歳になって新たに特定健診の対象者になられる方が多いです。その方々のなかには、特定健診という言葉を知らない方も沢山いらっしゃいますので、まずは特定健診とは何かをお伝えするとともに、国民健康保険の方だけではなく、今現在社会保険に入られている方にも、社会保険を脱退された際には、特定健診という健康診断があることを知っていただけるよう、広く周知をしていきたいと思っております。

委 員：特定健診の受診率が上がっている理由のひとつに、勧奨の機会が増えたとお話がありましたが、注意しておかなければいけないこととして、経済事情もあると思います。これまでは民間の人間ドックを受ける余裕があった方が、今のご時世で経済事情が少し苦しくなり、特定健診に移行したというケースもあると思います。間口をいかに広げて勧奨をしていくかも重要ですが、受診率が上がった理由が勧奨にだけあると考えると的外れな方向に進んでいくので、この協議会の枠組みで考えることではないかもしれませんが、ただ単に勧奨の場や機会を増やすだけでなく、経済事情なども含めて考えていく必要があると思いました。

事務局：ご自身で全身のどこまで検査したいかを考えていただいて、人間ドックを選ばれる方もいらっしゃれば、特定健診を受けられる方もいらっしゃいますので、様々な受け方があることや、市の特定健診とがん検診を組み合わせることで人間ドックの項目も網羅できることを、丁寧にご説明していきたいと思っております。

委 員：特定健診の受診率が上がったことで重症度が悪化したという評価をされていますが、特定健診の受診率を大きく上げる目標値になっているので、どう考えても悪化する方向に行くのではないのでしょうか。受診者増加が最大の目標であって、該当者や予備軍は悪化する前提で考えていらっしゃるのか、特定保健指導は何年か続いた上で改善するものであって、短期間での改善は無理かと思いますが、計画策定当初にどのように目標を立てられたのかお聞きしたいです。

事務局：特定健診の受診率の目標値については、計画策定当初は60%と設定しておりましたが、特定健診の制度が平成20年度に開始してから、当市で40%を超えたことはこれまで一度もなく、昨年度初めて40%を超えました。計画策定の段階では受診率が上がることに伴い、メタボリックシンドロームの該当者や予備軍の数値が悪化することは想定しておりましたが、今回の中間評価の段階で傾向が見えてきました。長期的な対策が必要かと思いますので、計画の最終評価をさせていただき段階で、状況を見て次の計画に活かしていきたいと考えております。

委員：例えば、高血糖であれば食事の改善が見られたとか、高血圧であれば塩分の摂取量が経年変化として低下したとか、他のものが改善しているので将来的に減少する見込みがあるというように、他のデータで補填することでポジティブな方向に見せられたらいいのではないかと思います。

事務局：受診率が上がっても血圧の数値は悪化しておりませんでしたので、わかりやすく効果があったということを皆さんにより理解していただけるように、ご説明の仕方を考えていきたいと思っています。

会長：新規受診者が増えたということであれば、例えば、3 年連続受診している人のなかのメタボリックシンドロームの割合などを見ることで、悪化したのか改善したのかがより見えやすくなるのではないかと思いますので、ご検討いただけたらと思います。

委員：市の LINE から特定健診の予約ができるのはとても便利ですし、他の情報も周知できると思いますので、広げていただけたらと思います。

会長：集団けん診受診者の予約方法も、若年層は Web 予約の割合が多いので、様々な方法で予約できることが重要だと感じます。

委員：国民健康保険運営協議会においても、受診率がこれまで 30%強であったのを、40%以上に上げていこうと議論しております。集団けん診にまだ余裕があるかどうかわかりませんが、より会場を増やすなどの検討はされているのでしょうか。

事務局：昨年度の特定健診の新規受診者は、集団けん診で受診される割合が多かったですので、今年度においても定員を 800 人から 920 人に増やしております。来年度も定員や回数、会場を増やすなど検討をしており、集団けん診をより受けやすく、身近に感じていただけるように周知啓発を進めていきたいと考えております。

会長：アクセスしやすい場所で集団けん診を実施するのは、特に若年層の世代にいいのではないかと感じます。

委員：私が勤務する病院ではバス健診を何度かしているのですが、市の方ではバス健診は考えておられないのでしょうか。

事務局：特定健診はある程度広い会場が必要となってくることからバスでの実施は考えておりませんが、集団けん診においてがん検診を同日実施しており、そちらはバスでご受診いただくことが可能です。また、昨年度はイオンモールで開催することで、市民の皆さまに来ていただきやすいような配慮をさせていただいております。

会 長：生活習慣病の予防や重症化予防、健康づくりに関して特定健診はベースとなりますので、受診率向上のためにどうしていくかを中心に考えていただけたらと思います。

4. 閉会

【井上健康福祉部副部長 あいさつ】

以 上